

実務者のための既存鉄骨造体育館等の耐震改修の手引と事例
正 誤 表

ページ 行	誤	正
p.51 表 3.2-2 中 12 行	3	削除
p.57 上から 2 行 (3.2.1-31)式	$\frac{Ma}{e_1}$	$\frac{Mu}{e_1}$
p.66 下から 6 行	m : せん断面の数	m : せん断面の数 = <u>1</u>
p.66 下から 1 行 (3.2.2-28)式	$\frac{Ma}{e_1}$	$\frac{Mu}{e_1}$
p.86 上から 10 行 (3.2.9-9)式	${}_f Q_p = \max\{\dots + n_{oc} \cdot Q_A\}$	${}_f Q_p = \max\{\dots + n_{oc} \cdot Q_a\}$
p.86 上から 12 行 (3.2.9-10)式	${}_f Q_p = \min\{\dots + n_{oc} \cdot Q_A\}$	${}_f Q_p = \min\{\dots + n_{oc} \cdot Q_a\}$
p.101 上から 2 行	嶋崎與助	嶋脇與助
p.101 上から 8 行	「鋼構造設計規準」	「鋼構造設計規準(2002 年第 3 版)」
p.101 上から 9 行	「高力ボルト接合設計施工指針」	「高力ボルト接合設計施工指針(1996 年第 3 版)」
p.101 上から 10 行	「鋼構造限界状態設計指針・同解説」	「鋼構造限界状態設計指針・同解説(2002 年第 2 版)」
p.249 上から 7 行	図 1.2.4 は 25 棟 40 方向	図 1.2.4 は 25 棟張間方向
p.256 下から 5 行	余熱	予熱
p.257 上から 6 行	表 7 余熱温度	表 7 予熱温度
p.285 上から 1 行	$F = \frac{\dots}{\dots + 250 \times 180}$	$F = \frac{\dots}{\dots + 250 + 180}$
p.285 上から 7 行	$F = \frac{\dots}{\dots + 250 \times 300}$	$F = \frac{\dots}{\dots + 250 + 300}$
p.285 上から 8 行	$E_0 = \frac{207 \times 1.91}{600 \times 1.0} = 0.65$ $I_s = \frac{0.72}{1.0 \times 1.0 \times 1.0} = \underline{\underline{0.72}}$	$E_0 = \frac{207 \times 1.97}{600 \times 1.0} = 0.68$ $I_s = \frac{0.68}{1.0 \times 1.0 \times 1.0} = \underline{\underline{0.68}}$
p.286 下から 6 行	$F = \frac{\dots}{\dots + 300 \times 300}$	$F = \frac{\dots}{\dots + 300 + 300}$

ページ 行	誤	正
p.147 下から 7 行	$C_b = 1.75 + \dots$	$C = 1.75 + \dots$
p.148 上から 1 行	${}_p\lambda_b = \dots - 0.3 \times 0.18 =$	${}_p\lambda_b = \dots - 0.3 \times 0.16 =$
p.149 上から 14 行	$\left(590 - \frac{d}{t_w} \sqrt{F_{yw}} \right)$	$\left(5190 - \frac{d}{t_w} \sqrt{F_{yw}} \right)$
p.151 下から 5 行	$(2 \times 9 + 13) = 269$	$(2 \times 9 + 2 \times 13) = 256mm$
p.152 上から 8 行の次へ挿入		(降伏耐力) $My = Z \cdot F = 4800 \times 235 = 112.8 \times 10^6 N \cdot m$ $= 112.8kN \cdot m < 126.48kN \cdot m = {}_jM_w$ したがって、タイプIIと考える
p.157 表下から 7 行へ追加	ある。	ある。(A, F, EはタイプIIの架構であるが、Aゾーン2階については、補強の為の架構の性状、潜在能力を確認する為F値を重み付き平均にて求めている)
p.157 下から 13 行	タイプIとなる。	タイプIIとなる。
p.157 下から 12 行	タイプII形状とする。	タイプIII形状とする。
p.166 上表の下から 10 行の次へ挿入		アンカー部は、良質なコンクリートで巻かれており、解析上はせん断降伏となっているが、十分な耐力があるものとして、重み付き平均する。